

若林 剛 (監修)
佐々木 章 (編)

ステップアップ内視鏡外科手術 [DVD 付]

北島政樹

国際医療福祉大学学長/前 日本内視鏡外科学会理事長

ある日、突然『ステップアップ内視鏡外科手術』(監修:若林剛, 編集:佐々木章)が医学書院から送られてきた。

本書を手にしてまず考えたことは1991年慶應義塾大学医学部外科学教室で現在、隆盛を誇る内視鏡外科手術が産声を上げたことである。いみじくも佐々木准教授の“刊行にあたって”の中で私と初期からともに内視鏡外科を手掛けた故大上正裕君と若林剛君(現岩手医科大学教授)が岩手の地で開催された第1回岩手内視鏡外科研究会(1998年)で講演し、情報交換会で二人がトロッカーのサイズで激論を交わしたと記載されている。

この激論に至ったのは外科学教室の内視鏡下手術、移植医療および外科腫瘍学が三本柱であり、特に内視鏡下手術に関しては、医・工・産学連携によりロボット手術を含めて推進してきた種々のエビデンスや思い入れがあったことによると思われた。

これらの内視鏡外科に関する推移を若林剛教授は自らよく理解しており、どうしたら教室員が一丸となって岩手医科大学が内視鏡外科におけ

る日本の先導者になれるかを熟慮した結果、誕生した一冊と理解した訳である。本書を読んでいるうちに益々、本書のすばらしさを実感することが出来た。

まず若林教授のリーダーシップでそれぞれの手技に明確に岩手医科大学外科の内視鏡下手術の理念が浸透していることである。次に内視鏡下手術の将来像、すなわちチーム医療を見越すかのようにメディカルスタッフにも心配りをされており、外科医のみならず多くの専門職の必読・必見の書になるだろうとチーム医療を推進する私にとって喜びさえ感じた。

本書の最大の特徴は一外科学教室がすべての内視鏡下手術の技術を網羅し、長年培ってきた知識と理念を集大成したことである。過去に素晴らしい内視鏡外科手術書を拝見したことはあるが、個々の施設における技であり、本書の如く、教室内で技に対する多くの議論が積み重ねてこられたと思われるが終始一貫して横断的に纏められた成書は初めての経験である。

さらに興味深いことは現在の若手

外科医が何を望んでいるかを見透かす如く、技術の向上をめざし、成書の内容とマッチングした動画をDVDで解説している点である。

今後は単なる教科書としてではなく、読者の視野に強く訴える本書の形が主流をなしてくるのではないかと期待している。

今回、若林剛教授、佐々木章准教授の見事なリーダーシップでチームを構成し、若手外科医のみならず、内視鏡下手術に関係するメディカルスタッフの視点からも素晴らしい成書を出版したことに敬意を表すと同時に、今後も継続して岩手医科大学から、本邦のみならず欧米に対しても発信することを大いに期待する次第である。まさしく本書は私が第100回日本外科学会で発信した福沢諭吉先生の“未来を見据えよ、いまのための今でなく未来のための今(Act now for the future)”の真髓を示している。

●B5/頁 260/2012年/定価 14,700円
(本体 14,000円+税 5%)

[ISBN978-4-260-01542-4]

医学書院 刊